

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和5年8月20日	外部評価結果確定日	令和5年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応にご家族様も安心していただいております。また、病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvcoCd=4270401195-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人かつ建物のすぐ横に病院があることで、利用者のみならず事業所で働く職員の安心にもつながっており、その安心は職員が穏やかにゆとりをもつて接することにつながっている。隣接している病院、デイケアに訪れる知人との交流や地域の学童との交流もあり、「この町のつながりを持ちながら」という理念の実践にもつながっている。また、排泄の自立支援を積極的に行っているため、介護度の高い利用者が多いにも関わらず、すべての利用者をトイレに誘導しており、リハビリパンツで過ごすことができている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。	開設時から、利用者が笑顔で楽しく過ごせることを大切にしている。新入職員には管理者が日常の会話の中で理念について話をし、それぞれの職員が自分のものとして理念を理解したうえで、日々の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり交流や面会の機会が減ってしまった。又、入院患者様との交流のみ継続。	運営推進会議には自治会長や民生委員が参加しており、地域自治会ともつながりができている。新型コロナウイルス感染症の影響で実習生などの受け入れは難しい状況となっているが、敬老の日には地元の学童保育の子供達から手紙をもらい、クリスマスにはそのお返しをする予定であり、顔を合わせなくても地元の子供たちとの交流ができている。また、新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、知人が同法人の病院に入院してきたり、デイサービスに来所したときには会いに行くなどして、交流は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ミニ講座を設け、認知症の人の理解や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。	今年5月より運営推進会議は対面での開催となっている。同法人内、系列の社会福祉法人もまとめて一緒に会議を行うことで、役所や地域包括支援センター、自治会長、民生委員、各施設の家族も参加しており、参加のための時間を作りやすくなっている。会議内では、参加者からの意見で、利用料の窓口持参が負担だということで、口座引き落としのための準備を進めているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂く事により顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようしている。月1回市のさわやか相談員の受け入れを行っている。保健所感染対策(発生時の対応)等指導を頂いた。	今年より運営推進会議は同法人内、系列の社会福祉法人も一緒に会議を行っており、役所、地域包括支援センター、自治会長、民生委員などに参加してもらうことで、施設の空き情報や地域の近況も含め、様々な情報のやり取りができるようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。	法人内に身体拘束の防止のための委員会が設置されており、月1回委員会を開催している。法人内で年間を通して研修プログラムが組まれており、その中で身体拘束に関する研修も行われている。身体拘束にあたる行為などを研修し、身体拘束について職員に周知するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。	利用者や家族からの意見は多くは出てこない状況だが、必要に応じて金銭的なことを含めた今後の選択肢の情報提供や、家族にお尋ねされたときに業者を紹介するなど家族や利用者にとって必要な内容を話すことができるよう努めている。また、利用者の身体状況に変化があったときに、家族と話すことが多いが、状況をもっと知らせしてほしいという家族の意見があり、急変時の電話連絡を頻回にするなど意見を反映させている。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、家族の来所回数も減り、家族とゆっくり話をすることが難しい状況であり、家族に送付している「おこんご通信」に運営推進会議の議事録も同封し、事業所のことを知ってもらい、その際に家族からの意見など返信をもらうことができれば、家族の意見を伺うきっかけ作りになるため、実施を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に活動を繋げている。	月1回のカンファレンスではもちろん、管理者に意見を出しやすい雰囲気づくりが日頃からできており、変えたほうが良いこと、変えてもらいたいこと、困っていることなど、その都度話しているとのことである。また、管理者も解決に向けてスタッフそれぞれから意見を伺い、たくさんの意見から総合的に解決できるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスして貰っている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしてもらっている。法人内での研修の参加、欠席の場合はレポート提出などあり。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行くための協力関係を築ける事が多くなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見などのドライブ時以前生活を行っていた自宅などをルートの中に計画している。ならびに家族との会話をはじめ、訪問された方、昔馴染みのデイケア利用者との面会・会話のかけ橋等にも努めている。	今夏は新型コロナウイルス感染症の影響で、事業所単体での開催となったが、毎年夏には他施設と合同でスイカ割りを開催している。利用者は近隣の方が多く、同法人の病院、デイケアには地域の方が多く訪れる。そのため、新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、病院に知人が来たときは会いに行ったり、デイケアの時には会いに来たり、入院されたときはお見舞いに行くなど、馴染みの人との関係継続につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。	日々話しかけることを意識し、会話の中から気持ちを把握したり、表情から読み取ったりしている。利用者の変化の過程が分かりにくいので、気づいた時にノートに書き留める事で、介護計画や日頃の支援に活かせるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりした事を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際に関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	入居時に利用者、家族より聞き取りを行い、事業所に慣れるまでしばらく様子を見てから、ケアマネージャーが管理者、生活機能訓練の担当者から意見を聞き、集約した上で介護計画を作成している。現状維持を目的として、出来なくなったことに対し、どのように介護支援していくのか課題を見つけて、半年ごとに見直しを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して柔軟に対応するようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事等に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの病院へ受診、往診ができています。また、月2回の訪問診療がある。	併設病院をかかりつけ医としており、月2回訪問診療として内科受診している。別の医療機関を利用する際には、家族の協力を得ている。夜間、緊急時も併設病院の主治医が対応してくれて、他の病院への移送など連携が整っているので、職員も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができ、お見舞いに行き、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。	医療的ケアは事業所では行えないため、利用者が食事が摂れなくなった時や、体調の変化があった時にまず家族に相談し、主治医と話し合い確認したうえで、法人の他施設や医療機関へ移行するよう支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	避難訓練は、併設医療法人全体で取り組んでおり、消防署の立会いの下、年2回、内夜間想定を1回行っている。避難訓練後、消火器の使用について消防署より指導があり、未経験者を優先して行っている。事業所内はガス使用はなく、電気のみで火気がない。	現在の避難訓練では、地震、水害等を想定した訓練を行っていないとの事なので、今後はその状況に応じた訓練を行うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。	地域の馴染みの方の利用が多く、時間が経つと方言を交えて慣れ合いになることがあるため、利用者を先輩と意識し、苗字で呼び掛けるよう心掛けている。個人情報については、入居時に家族より同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。	献立は管理栄養士が1週間毎作成し、併設病院の厨房で調理が行われており、事業所ではご飯のみ炊いて、盛り付け等配膳を行っている。時には、おはぎ等おやつを職員と一緒に作ることもある。茶碗拭きや机拭き等率先してお手伝いをしてくれる利用者もいる。食事が進まない方には、小さいおにぎりにおかずを入れて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄もやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	排泄の自立度維持の為、すべての利用者にトイレで排泄する支援を行っているので、リハビリパンツの利用者が多く、尿意を自ら発信してくれることが多い。排泄チェックシートも用いて利用者ごとのタイミングを職員が把握できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶ゼリーや内服薬での調整、飲料水を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等工夫している。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	入浴は併設する医療機関の浴室を利用しているため、週2回の利用日はほぼ決められているが、入浴を拒否する方や入浴日に予定が入っている場合は、利用者同士で調整をしている。菖蒲湯やゆず湯も提供し、季節を味わう事ができる。異性介助の時は、本人の同意を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナでほとんど外出はできていない。	新型コロナ感染症の分類が5類になったが、まだ外出は出来ないので、屋上に出て気分転換を図ったりしている。諫早の「のんのこまつり」を、テレビで放映すると利用者に喜ばれた。病院受診等で家族と出かける場合は、主治医の許可と家族の行動歴も確認したうえで、貴重な時間を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者へ支援が限られる。携帯電話の持ち込みの方もあり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。季節感がわかるように飾り付けなど行っている。	壁には、レクレーションで作成した季節毎の飾りつけをしており、今回は学童からの敬老の日メッセージが飾られていた。朝食後、利用者が個人の部屋に入ったタイミングで掃き、拭き掃除を行っている。感染予防のために、特に消毒はこまめに行っている。定期的に図書館より本を借りており、読書を楽しむ方もいる。大村音頭体操を取り入れ、皆で体操したり、塗り絵や脳トレなど好きな方には提供して楽しんでもらっている。	事業所の浴室は使用していないとの事で、周りに荷物が置かれていた。浴室前のトイレの使用の時に、移動の際に荷物があると不便に感じたので、整理整頓がされると掃除の効率化もあがるのではと期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	家族の写真や好みのものを持ち込み、利用者は安心して過ごしている。家族からのプレゼントのおしゃべり人形は愛らしく、他の利用者からも可愛がられ話し相手になったりと癒しの存在となっていた。加湿器を使用しないため、冬は濡れタオルを部屋に干す等工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等にははてすりを付けたり工夫している。照明の工夫。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご (第二ユニット)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和5年8月20日	外部評価結果確定日	令和5年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急時の対応にご家族様も安心していただいております。また病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4270401195-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり交流や面会の機会が減ってしまった。入院患者様方と交流のみ継続		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ミニ講座を設け、認知症の人の理解や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂く事により顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようしている。月1回市のさわやか相談員の受け入れを行っている。保健所感染対策(発生時の対応)等指導を頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に活動を繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスして貰っている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしている。法人内での研修の参加。欠席の場合レポート提出などあり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行くための協力関係を築ける事が多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見などのドライブ時以前生活を行っていた自宅などをルートの中に計画している。な らびに家族との会話をはじめ、訪問された方、昔馴染みのデイケア利用者との面会・会話のかけ橋等にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりした事を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して柔軟に対応できるようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事等に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの病院へ受診、往診ができています。また、月2回の訪問診療。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができ、お見舞いに行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる)饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄もやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿便意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶ゼリーや内服薬での調整。飲料水を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等工夫している。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにて排出はできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者へ支援が限られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。季節感が分かるように飾り付けなど行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等にはてすりを付けたり工夫している。照明の工夫。		